

アジア歴史資料センターの今後の展望について

ー開設二周年記念会合を振り返ってー

国立公文書館 アジア歴史資料センター 大久保 政博

アジア歴史資料センターは、平成13年11月30日に近現代の日本とアジア諸国に関係する日本の公文書の原本を、インターネットを通して画像データで提供する新たな組織として国立公文書館に設立されました。

開設して二周年を迎える平成15年11月28日に国立公文書館において、アジア歴史資料センター開設二周年記念会合が開かれました。この会合には、アジア歴史資料センター諮問委員会及びデータ検証委員会の両委員会の委員、センターに画像データを提供している各所蔵機関（国立公文書館、外務省外交史料館、防衛庁防衛研究所図書館）の代表者、内閣官房、内閣府の関係者など約30名が出席し、「センター開設二周年の総括と今後の展望」をテーマに活発な意見交換が行われました。

センターでは、この会合で話題となった事項をどのように事業に反映していくかという点を含め今後の展望を、この誌面をお借りして以下に述べたいと思います。今後のデジタルアーカイブを考える際の参考として頂ければ幸いです。



菊池館長挨拶

- 開設後2年間でセンターの活動は先導的デジタルアーカイブとして、ユネスコや内外の公文書関係者等から高い評価を得るようになりました。この点

に関しては、今後とも提供資料の数量を早期に増やすとともに目録データの質の向上、センター独自の辞書機能の精査・拡充など念頭におきつつ、併せて最新の情報システム関係の動向も視野にいれ事業を進めて行き、引き続き評価が得られるようにしていきたいと考えております。

また、本格的なデジタルアーカイブとして、センターの経験を必要とする組織等にはノウハウの提供なども積極的に行っていく所存です。

- 資料を所蔵している場所へ足を運ばなくても自宅や研究室等に居ながらにして、インターネットで原資料の画像を探すことが可能になりました。こうした利点を最大限に生かして研究者への広報活動を引き続き行うとともに教育現場での資料の活用や生涯教育における活用など対象を広げた取組みを実施していく予定です。
- センターの事業は、公文書の膨大な画像をインターネットで提供するという前例のない事業であったため、その取組みは試行錯誤の連続でありました。その際、センターでは常に利用者の視点にたった事業実施を心がけてきました。システムの改良、ホームページの改善及び目録の誤字脱字等の修正など多くの点につき利用者の声を反映しつつ利便性の向上に努めてきたところで、今後とも利用者あつてのセンターという姿勢を崩すことなく事業を展開していくつもりでおります。そのためには幅広い利用者の声を吸収する機会の拡大などを検討していきたいと思っております。
- センターが提供する資料については、当面は国立公文書館、外務省外交史料館及び防衛庁防衛研究所図書館から提供される画像資料で2,850万を超える画像を予定しており、そのデータベース構築の早期実現を目指してまいります。その際の資料提供の優先順位については、利用者の声も積極的に反映させていきたいと考えております。
- センターにおける今後の提供資料のあり方については、現在提供を受けている3館の資料の拡充や現公開資料の解説の付与などをどのように考えるか、また、他が所蔵している歴史的な資料（写真・映像などの記録も含む。）をどのように考えるか、さらに提供資料の年代の幅を拡大すべきか等の諸点についても考える時期に差し掛かっており、長期的な戦略にたった検討を早期行う必要があります。

そのため、歴史資料の所在情報などの蓄積をどのように実施していくかについても検討する必要があります。

- 国内外のデジタルアーカイブとの協力関係を構築し、インターネット上での相互の資料検索・閲覧などネットワークの構築を模索して行きたい。少なくとも、所在情報の提供の検討、組織間の相互リンクなど可能なところから実施していきたいと考えます。
- センターでは、現在のところ資料提供を唯一のサービスとしており、そのサービス向上のために努めてきました。今後は、デジタルミュージアムや年表の作成、歴史資料の所在情報の提供などの多様なサービスにも力を注いでいきます。

また、試行的に実施している英語による検索については、タイトルの英訳をはじめ英語の辞書の見直しを図るとともに、センター独自の辞書の公開についても検討していきます。



会議風景

センターにおいては、現在、画像数にして450万点、目録数にして35万件の資料を検索閲覧が可能となっています。また、ホームページへのアクセス件数も、平成16年3月12日現在で54万件を数えるようになりました。

センターでは、こうした貴重な機会に得られた意見や提案等を今後の発展の契機として役立てて行きたいと考えております。また、皆様から頂いた貴重な意見や提案を無駄にすることなく、世界に誇れるデジタルアーカイブとして一人でも多くの人にセンターの資料にアクセスしていただけるよう引き続き努力して参りたいと考えております。